

新火葬場の整備方針について

市では令和6年7月に新火葬場の建設地を最終決定したことから、より具体的な施設整備内容等を検討するため、各種調査の実施に加え、新火葬場ワークショップを開催し市民意見の聴取を行ってきた。

平成29年に策定した新火葬場建設基本構想やこれまで行ってきた様々な調査・検討の結果等を踏まえ、新火葬場の整備を効率的かつ効果的に進めるため、具体的な整備方針を定める。

1. 新火葬場ワークショップについて

(1) 目的

市民に故人を見送ることについての思いや考えを深めていただくとともに、新しい火葬場の整備について一緒に考える機会とする。

(2) 概要

- ・市民からの公募により15名が参加
- ・令和7年3月から5月にかけて4回開催
- ・火葬場で過ごす時間や新火葬場に期待する機能等について意見を交換

(3) 主な意見

＜新火葬場建設基本構想に定める基本方針①～④ごとに分類＞

① 故人の旅立ちにふさわしい厳かな空間	
・日常生活の延長線上ではなく、厳粛さもあり別世界を感じられる雰囲気 ・現施設のあった場所を大切に（跡地の上に建物等を建てるのは避けてほしい） ・他の利用者と顔を合わさなくてもよい部屋や動線 ・家族葬ができる ・命について考えられる ・静かな音楽が流れている	
② 見送る人々にとってやさしく温もりのある空間	
・時間にとらわれずゆっくり過ごしたい ・心も身体も落ち着く（整う）ことができる ・一人静かに思い出に浸れる場所がある ・故人の好きな音楽を流したり趣味の物を飾る ・自然の光を建物に取り込む ・窓から春夏秋冬が感じられる ・告別・収骨室からも外の景色が見える ・外に出て気分転換ができる	

・待合室とは別にゆったりとしたソファなどで休める場所がある ・親族以外の人たちでも敷地内で見送ることができる場所がある
③ 高山の自然・文化・伝統に根差した高山らしい空間
・里山と一体となっている ・公園のように自然が豊か ・飛騨の家具や飛騨の木を内装に使う ・緑や花が美しく四季を感じられる庭園 ・地域産材を使ってほしい ・告別・収骨室に高山らしい壁画を飾る
④ 公共施設としてふさわしい建物
・将来の建替えも視野に入れ、建物をコンパクトにまとめて周囲に広場を作ったかどうか ・授乳室やキッズルームがあれば子育て世代は利用しやすくなる ・バリアフリーは必須 ・喪服から着替えられる個室がほしい ・マイナスイメージ（不吉、怖い）を変えたい ・高齢者のための椅子が多めにある ・子ども達が怖がらなくてもいいように ・スタッフが楽しく安心して働ける
その他
・新火葬場のネーミング（愛称）をみんなで決めたい ・お墓参りに来た人にも駐車場を解放する ・火葬場までの道路に花や木を植える

2. 建物の整備方針

（1）配置

現施設の南側に配置する。

〔理由〕

敷地造成に伴う森林の伐採や地山の掘削を最小限に抑えることができること（風致地区の景観に最大限配慮できること）、北側に空地を設けることにより、将来的な建替え計画が容易になること等を考慮した。

（2）構造

二層構造（1階、地階）とし、可能な限り木造とする。

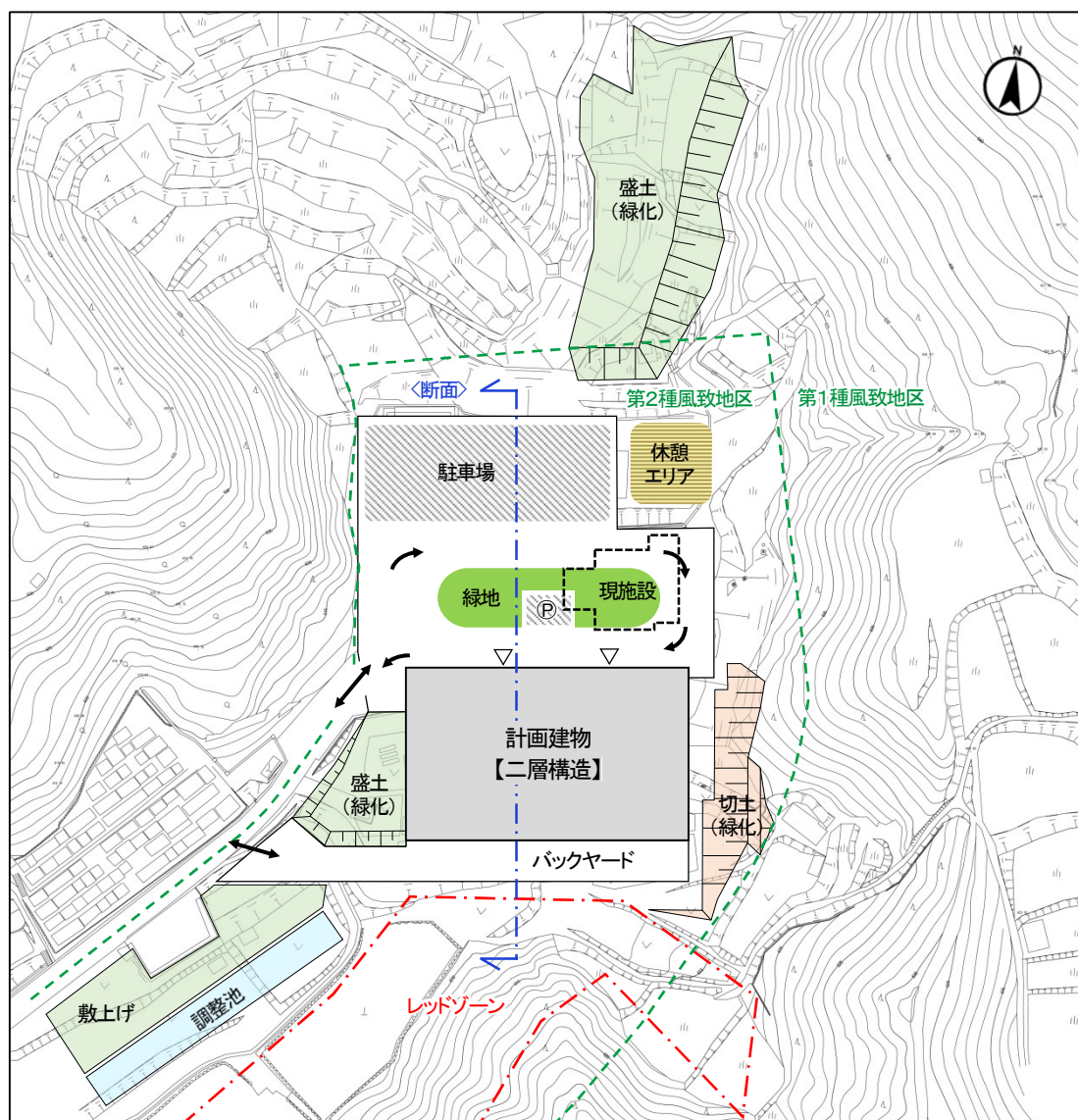
（3）高さ

平均地盤面（建物が周囲の地面と接する位置の平均の高さ）から10m以下とする。

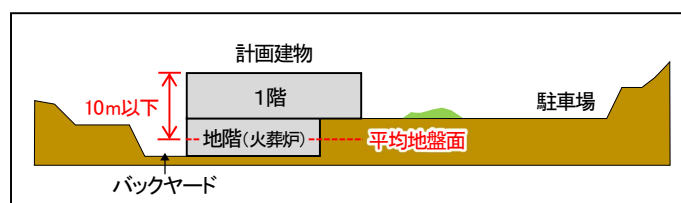
（4）規模

建築面積1,100㎡程度、延床面積2,100㎡程度とする。

<図1：敷地平面イメージ>



<図2：敷地断面イメージ>

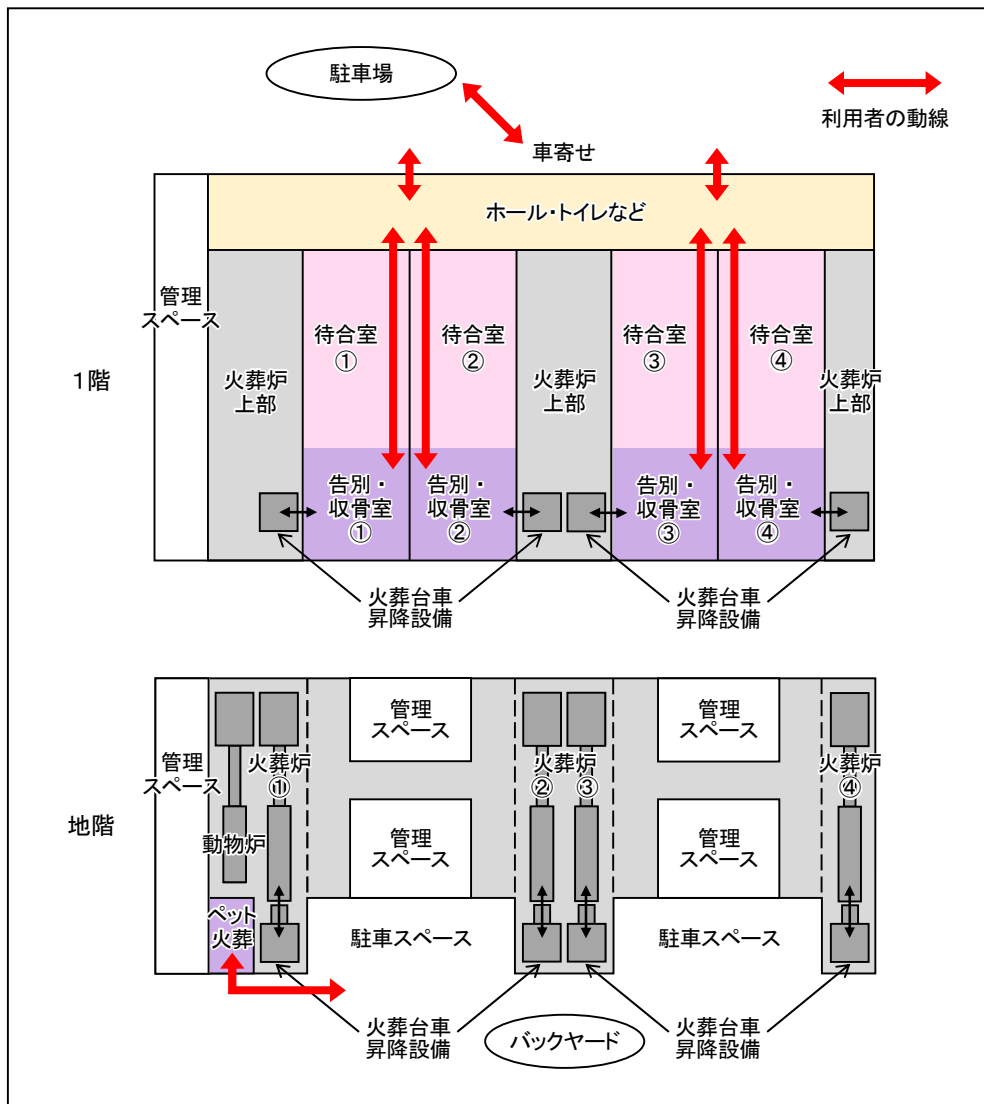


※上記の図は現段階におけるイメージであり、今後、詳細な設計を行い決定する。

[敷地平面イメージに反映した主な意見]

- ① 現施設のあった場所を大切に（跡地の上に建物等を建てるのは避けてほしい）
- ② 外に出て気分転換ができる
- ③ 里山と一体となっている
- ④ 将来の建替えも視野に入れ、建物をコンパクトにまとめて周囲に広場を作ったらどうか

<図3：建物平面イメージ>



※上記の図は現段階におけるイメージであり、今後、詳細な設計を行い決定する。

〔建物平面イメージに反映した主な意見〕

- ① 他の利用者と顔を合わさなくてもよい部屋や動線、家族葬ができる
- ② 告别・収骨室からも外の景色が見える
- ④ バリアフリーは必須

その他の施設整備や施設運営に関する意見については、今後、詳細な設計等を行う中で検討する。

3. 事業手法

新火葬場建設に想定される事業手法の中で、総合的な評価が最も高い「従来手法（分離発注方式）」とする。別紙1

4. 概算事業費

新火葬場建設費 33.1億円（設計・監理、用地、敷地造成、建築、火葬炉設備、備品）
 インフラ整備費 6.2億円（道路・交差点改良、給水設備、下水道管、道路融雪設備）

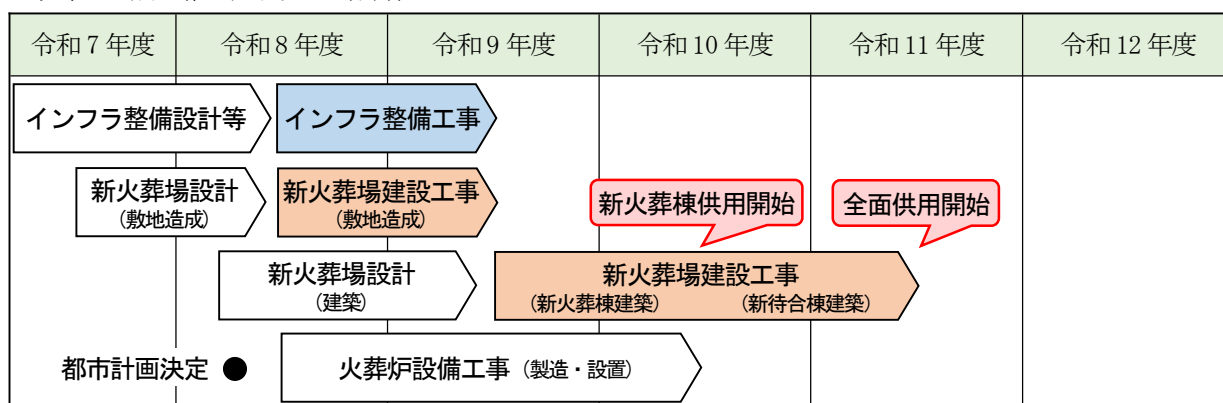
5. 整備スケジュール

令和10年度中の一部（新火葬棟）供用開始、令和11年度中の全面供用開始としていたスケジュールを、令和12年4月供用開始に見直す。

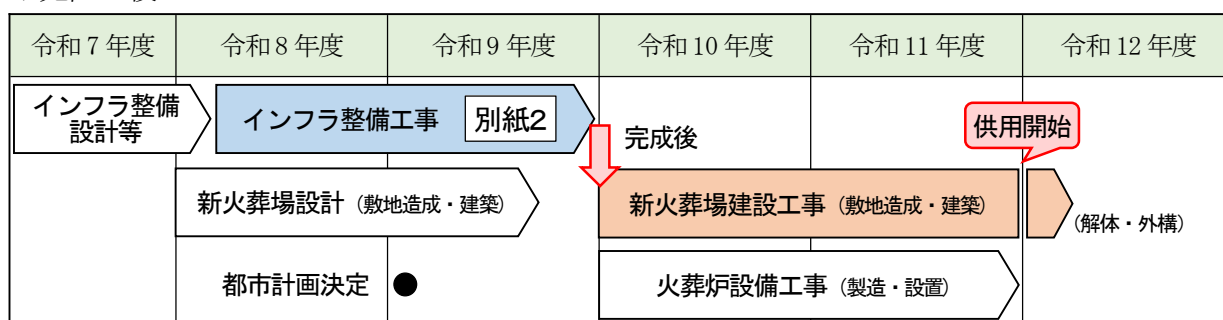
〔理由〕

- ・交差点改良工事と道路融雪設備設置工事の追加に伴い、インフラ整備工事と新火葬場建設工事の双方が効率的に行えるよう、工程を見直す（インフラ整備工事の期間を延長し、インフラ整備工事が完成した後に新火葬場建設工事を開始する）ため。
- ・新火葬棟と新待合棟の2棟を順に建築する想定であったが、2. 建物の整備方針のとおり、二層構造の建物を建築するため。

◆見直し前（従来手法の場合）



◆見直し後



6. 今後の予定

令和7年 8月 地元説明会の開催

11月 〔設計・監理〕〔火葬炉設備〕公募型プロポーザルの参加者募集公告

令和8年 3月 〔設計・監理〕〔火葬炉設備〕公募型プロポーザルの審査結果公表

4月 〔設計・監理〕契約、設計業務着手 〔火葬炉設備〕覚書締結

手法	従来手法（分離発注方式）		火葬炉設備＋DB＋O方式		DB＋O方式		DBO方式／PFI方式	
発注イメージ								
市内事業者の参画 （設計・建設・運営）	○	可能性が高い それぞれの業務が独立しているため、設計・建設・運営の各事業者は参画しやすい。	△	可能性がやや低い 設計・建設の各事業者は、DB方式のリスク（概略設計による工事価格設定リスクや受注後の設計変更対応リスク等）に対する不安等から、参画に消極的である。	△	可能性が低い 共同企業体の要となる火葬炉設備メーカーが国内に数社しかなく、設計・建設の各事業者は繋がりが少ないため、各事業者にとって共同企業体を組成するハードルが高い。	×	可能性が非常に低い 左記に加え、現状では火葬場の運営業務を行える市内事業者が複数存在しないため、設計・建設の各事業者にとって特別目的会社等の組成は非常に困難である。
運営業務を見据えた 施設整備	○	可能である 火葬場は事業性がなく定型的な業務が多いことから、現行の運営事業者等の意見を参考にすることで対応できる。	○	可能である 同左	○	可能である 同左	○	可能である 設計段階から運営事業者の意見を反映することができる。
コスト縮減の期待	△	設計・建設のコスト縮減は限定的である 設計段階での工夫によりある程度可能であるが、個別発注のため、創意工夫を発揮できる範囲に限られる。	○	設計・建設のコスト縮減が期待できる 設計・建設を一括発注することにより、創意工夫を発揮できる範囲が広がり、設計・建設のコスト縮減が期待できる。	○	設計・建設のコスト縮減が期待できる 同左	○	設計・建設のコスト縮減が期待できる 設計・建設を一括発注することにより、創意工夫を発揮できる範囲が広がり、設計・建設のコスト縮減が期待できる。 会社設立費等が増加する。
概算事業費		約33.1億円		約31.9億円		約31.7億円		約31.7～32.1億円
整備期間	○	短い（4年半程度） 事業者選定 半年程度 設計・工事 4年程度	△	やや長い（5年半程度） 事業者選定 1年半程度 設計・工事 4年程度	△	やや長い（5年半程度） 事業者選定 1年半程度 設計・工事 4年程度	×	長い（6年程度） 事業者選定 2年程度 設計・工事 4年程度
工期短縮の期待		現施設を稼働しながら建替える制約等があることや、個別発注であることを考慮すると、工期の短縮は望めない。		現施設を稼働しながら建替える制約等があることを考慮すると、一括発注による工期の短縮はあまり期待できない。		同左		同左
総合評価	○	コスト縮減の期待は限定的であるが、市内事業者の参画可能性が最も高く、整備期間が短いため早期完成が望める。	△	コスト縮減は期待できるが、市内事業者の参画可能性がやや低く、整備期間もやや長い。	△	コスト縮減は期待できるが、市内事業者の参画可能性が低く、整備期間もやや長い。	×	コスト縮減は期待できるが、市内事業者の参画可能性が非常に低く、整備期間も長い。

新火葬場周辺インフラ整備概要図

